

議案外質問(9月16日) 高橋ゆうすけ議員

## 正規教員増やし少人数学級を手厚く 自営業者応援のため希望する保育所へ

高橋ゆうすけ議員は9月16日の本会議で、正規教員の確保、保育所への入所基準について質問しました。

### 正規採用の人数が足りない

「子どもにとっては大事な1年なのに、なぜ正規の先生が足りないのか」。信頼していた教員が非正規の臨時教員だったため続投できなかった事例と、保護者の声を示し、高橋議員は「保護者が安心して子どもを学校へ送り出し、学ぶ環境を充実させるためにも、正規教員が足りない現状を改善していく必要があるのでは」と問題提起しました。

名古屋市では今年度、教員の正規採用は376名ですが、正規採用では足りなかったため、1年間の期限で臨時教員89名を採用。これらの採用数は近年、あまり変わりなく続いています。

### 少人数学級を市教委も評価

名古屋市では独自に小学校1・2年生の30人学級を実施していますが、この事業は現在、少人数指導のために市が独自予算で任用している非常勤講師と常勤講師によって進められています。高橋議員は、名古屋市教育委員会自身も「基礎的な計算力の向上が見られた」等、高く評価していることを示し、「これらは本来、臨時教員ではなく正規教員を配置して手厚く進めていくべきものでは」と質問しました。

### 県費負担教職員の権限移譲を契機に

2017年度からは県費負担教職員の定数などが愛知県から名古屋市へ権限移譲されることになっています。高橋議員は、「県費負担教職員の権限移譲を契機に少人数学級の拡充を」「いじめや不登校対応など様々なニーズに対応するためにも見通しを立てて正規教員の採用増を進めていくべき」と求めました。

教育長は、県を介さなくなり「必要数の推計がしやすくなることから、欠員を減らすことが期待できる」、少人数学級の拡充と正規教員の採用増については「今後も現行の水準を維持」と答弁。

高橋議員は、権限移譲の後は教員定数等を名古屋市が独自に進めていけることを示し、「雇用の不安定な臨時教員ではなく、正規教員を増やして、様々なニ

ズに応えられるようにしていくこと」を要望しました。

### 居宅内就労でランクBに

続けて高橋議員は、保育所の入所基準について質問しました。

名古屋市では保育所の入所順位について、その必要度に応じてAからHまで8ランクに分けています。1日8時間、週5日以上働くサラリーマン等はランクAですが、お父さんかお母さんのどちらか一方が居宅内就労、自宅で働いている場合はランクBとなり、保育所の利用が困難になる問題を取り上げました。

### 仕事場では一緒にいられない

自宅兼工場で働く方は「仕事場で子どもの面倒を見るのは、危険もあるので一緒にいられない」、アクセサリ製造者は営業などで急に出かける際は子どもを預けることができない、と実態を紹介し、高橋議員は「中小企業・小規模事業者を応援し、子育てしながらでも働きやすい環境を作っていくためにも、保育所の入所基準については居宅内就労であるかどうかではなく、就労の実態に応じた保育所への入所審査を行えるように改善をしていくべき」と質問しました。

### 困難さは現場を見れば分かる

教育子ども局長は、緊急時の対応や通勤時間など、就労場所の観点からは居宅外就労の方が優先されている基準を認めつつ、最終的な決定は「就労時間や家庭状況など他の条件も含め決定している」と答弁。併せて「様々な事情を抱えておられる市民の方々のご理解を得られるよう、適切な制度の運用に努める」「多くの方が希望の施設を利用できるよう、引き続き保育所等の整備を進めていきたい」と答えました。

高橋議員は、子どもを育てながら働く困難さは「実際にその現場を見てみれば分かること」と指摘し、「自営業の方を応援していくためにも、子どもたちを区別することなく平等に、希望する保育所に入所できるようにしていくべきだ」と主張しました

